

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	平成27年6月10日	評価結果市町村受理日	平成27年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=2170400598-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気大切に、施設での生活の中でも季節を感じて頂けるよう、季節の草花や壁面の飾りを季節により変えている。食事などでは、出来るかぎり旬の食材を使用し献立に取り入れ、話題にする事で、季節を感じて頂くよう心掛けている。
 ・ご家族との交流を意識し、日頃からコミュニケーションを大切にしている。又ご家族とご利用者がゆったりと過ごせる様、年に数回の食事を開催し気軽に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所の理念である『響き合い』はその名の通り、利用者と職員との『響き合い』、家族と職員、利用者同士、職員同士、施設長・管理者・ケアマネージャーと職員の『響き合い』を表わし、施設内は響き合いの和音が優しい楽器を奏するように心地よいものになっている。さらにその和音は家庭的環境や家族と利用者との調和となっている。そして地域住民との『響き合い』にも積極的に取り組み、利用者を参加させながらの交流を実施している。新しい施設長になって3年経過し、笑顔の和音が『響き合い』の形として現れている。調査訪問時には家族との食事が行われており、明るい会話と笑い声が絶えない和やかな雰囲気が、支援に『響き合い』の理念が活かされていることを物語っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念推進委員会にチーフが参加し施設での取り組み等を発表する機会がある。ユニット会議では実際に響き合えた事例について各職員が意見を発表する機会を作り、日々意識しケアに努めている。	事業所には、理念である『響き合い』の言葉が飛び交い、利用者同士、職員と利用者・家族との笑顔の響き合い、上司と職員の関係も『響き合い』が合言葉となっている。家族的な環境が整っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。買い物や外食、地域の催し物にも意識して出かけ、地域の方々との交流を心掛けている。外出先では顔見知りの関係も築けている。又こども110番の窓口としても協力している。	『響き合い』の理念がここでも活かされている。コンビニ、薬局、スーパー、消防署、市民の森公園と恵まれた環境の中、利用者は社会資源を活用し豊かな生活を送っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会者の方からの認知症の相談などもありその都度お話しする機会もある。玄関先には介護相談の看板を設置し秋まつりには、介護相談も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、意見交換を行っている。会議後にご利用者と一緒におやつを食べながら談話の時間を設け、職員へ直接伝えられない事など聞いて頂きケアに繋がっている。	外部の方の意見を聞き運営に活かしたいとの思いから、会議終了後に出席者に残ってもらい利用者との響き合いの時間を確保、利用者へ寄り添ってもらっている。新しい形の支援である。	会議出席者のほとんどが男性であり、今後女性のメンバーを増やすことで利用者との会話が弾むと考えられる。検討をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、エリアマネージャーが日頃から連携を取り、協力関係を築けるよう努めている。今年度は運営推進会議へも参加して頂く事となり話をする機会も増えている。	市が民生委員協議会の高齢者部門の視察研修にこの事業所を選ぶなど、日頃から市との連携は密にしている。介護保険の改正時には、助言や説明を聞きに行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育委員会からの資料を使い、研修を行い身体拘束をしないケアの実践に努めている。具体例を挙げ、職員同士注意し合える関係作りも出来ている。畳の使用や床にマットを敷くなど代替えの方法を採用している。現在、身体拘束をしている方はいない。	事業所は市街地にあり自動車の往来が激しい中、安全のため鍵を掛ける事を止むを得ないことと考えるてはいない。閉じ込められる苦痛を職員が話し合い、日中はできるだけ鍵をかけないことや、人が通ると音が鳴るセンサーの取り付けなど工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会からの資料を使い、研修を行い虐待防止に努めている。今回の介護推進委員会では虐待に繋がりがちな事例を各施設から持ち寄り、話し合いをする事となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社後の初級研修で学び、その後は教育委員会の資料を使い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や入居前には、ご利用者、ご家族に対し十分な説明を行い、理解・納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室や事務所などを活用し、ゆっくりと話を伺う時間を意識している。時々ご利用者が事務所に話を聞いて欲しいと訪ねてみえる。民生委員や高齢福祉課の職員の方に直接お話しができるよう配慮している。	家族の面会は多い。家族と一緒に食事をしたり、以前は入浴にも家族が手伝いに来たこともある。調査訪問時も家族との食事会が行われており、利用者が孫娘との食事を楽しんでいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々の会話等で話をする機会を設けている。一対一のヒヤリングを実施し職員から意見を聞く機会がある。内容により意見を本社に伝える事もある。	『響き合い』の理念の通り、施設長、ケアマネージャーそして職員等の絆は極めて強く固い。そこには何でも相談できる、会議で自由に意見を言うことができる態勢が来ている。人事考課や個人面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員への人事考課制度を作り実行している。各職員は目標を持ち日々のケアにあたっている。評価に従い、時給アップもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では、教育・研修委員会、理念・介護推進委員会を設置し会社全体としても向上を目指している。社内外研修案内を出し、参加する機会を設け、シフト調整も協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G・H協議会の委員会や研修に参加し、他の事業所との交流を行い、情報交換の場もなっている。今年度も事例発表会に協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にてゆっくりとご利用者やご家族の話を傾聴し初期の信頼関係の構築に努めている。入居後は特にコミュニケーションを意識し接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時には、ご家族の話を傾聴し共にご利用者を支え支援出来るよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で得た情報やご本人、ご家族の要望も踏まえ必要な支援を専門職と共に話し合いサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を踏まえ、各ご利用者の状態に合わせ、日々の暮らしの中で役割りや活躍する場を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く、日頃の様子を随時報告している。ご家族を招いての食事会などを通し、ゆっくりと一緒に過ごして頂く時間も作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人がよく訪ねてみえる。ゆっくりとお話しが出来るよう配慮している。一緒におやつなど召し上がって頂く事もある。ボランティアとし来所した際には、カラオケで楽しめる事もある。	社会資源の活用もそうであるが、施設がひとつの社会資源であることをPRし、利用者の家族や親戚、友人等に気兼ねなく来てもらえるよう、訪問時の”モチナシ”を職員全員で工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の交流が持てる様、テーブルの席を配慮している。ソファなどを設置する事で自由に色々な方と接する事も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、いつでも相談頂ける事をお伝えし、必要に応じ対応できる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から希望を聞き、実現に努めている。意思疎通が困難な方へは、ご家族からの話や日々の様子から思いがくみ取れるよう心掛けている。	『響き合い』の理念どおり、利用者に寄り添う支援を続けている。そうすることによって、利用者の気持ちが自然と分ってくると職員は言っている。響き合えることを最優先に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にてご本人・ご家族から情報収集を行い、一人ひとりの暮らし方を尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や日々の申し送りなどを活用し一人ひとりの現状把握に努め、ユニット会議の検討会にて意見交換を行い、ケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報の共有に心掛け、日々のケア時やユニット会議などで検討会を開き、現状に即した支援に努めている。会議等では、全職員が意見を出し合えるよう進行している。	本人や家族・看護師より事前に意見を聞き、介護計画を作っている。全職員がプランをわかるよう毎日の経過記録に介護計画を添付し記録している。全職員で2週間に1度検討し、3カ月毎に計画見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、連絡ノート等を活用し、特に介護記録にはご利用者の会話など詳しく記入する様、意識している。ユニット会議では職員が活発に意見を発表しプランに繋がられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の状況に応じ、柔軟に対応できる体制に努めている。受診の付き添いや送迎などの協力も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、買い物、外食などに出掛け、地域の方々と接する機会を意識している。地域ボランティアの受け入れもあり、共に楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後も引き続き往診を受けられている方もある。施設以外の受診の付き添いや送迎等の協力もやっている。	希望かかりつけ医を選択し、かかりつけ医による訪問診療が2週間に一度、訪問看護は毎週行なわれている。通院が必要な時は事業所の車で送迎し病院で家族と待ち合わせ等、受診支援や情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携により、24時間のオンコール体制を確保している。週に1度の訪問を受け、日々の健康管理や相談を行い、場合により主治医に繋げる事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は安心して治療をして頂けるようこまめに面会し、担当看護師からの情報を収集している。ご家族とも情報共有を行い状態の把握に努めている。退院後の体制準備も進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合や終末期についての説明と同意を得ている。施設として出来る事、出来ない事の説明を行い、出来る限りのケアに努めている。又状態の変化に合わせて、主治医・ご家族との話し合いを行っている。	これまで看取りの経験はないが、契約時に重度化した場合について説明し同意書を交わしている。段階毎に医師や家族と話し合い確認する等、条件が整えば事業所でも看取りの出来る体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応できるようユニット会議で確認する機会を作っている。又現場にも同様の物を設置しいつでも確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回定期的に消防訓練を実施している。5/17には消防署・消防団員・高齢福祉課の方々との合同訓練を実施する事が出来た。会議などでは、風水害対策の研修も実施している。	消防署を交えた大掛かりな訓練から、夜間帯を想定した2人体制の訓練まで、総合を2回、部分訓練を2回定期的に実施している。備蓄品は水や乾パン・飴など3日分を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけや対応を行っている。排泄時や入浴時などは特に羞恥心に配慮した対応を心掛けている。教育委員会の研修においても学ぶ機会がある。	職員は接遇の研修を受け、利用者一人ひとりに合わせた声掛けや対応に心掛けている。失敗があってもさりげなく手際よく対応し、入浴ではバスタオルを使用し、プライバシーや羞恥心に配慮する等心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る方は、日常生活の中で日々、自己決定が出来る機会を意識している。困難なご利用者は日々の暮らしから思いをくみ取れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、ご利用者のペースを尊重し、希望に沿える努力をしている。業務の変更など調整を行い対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々身だしなみに気を配り、外出時などには、外出着に着替える方もいる。個別に以前から通っていた美容院へ行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ季節を感じられるよう配慮している。誕生日の方は希望の献立を提供し、皆さんでお祝いをしている。食器拭きなど役割りとして手伝って頂ける方もいる。	メインの肉と魚は決まっているが、その他は季節の食材やあるものを使って利用者の希望を聞きながら日々献立を決めている。時には家族を招いたり、地域のレストランでの外食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや旬の食材の提供を心掛け、個々に合わせた形態で対応している。水分量や食事量の確保が難しい場合は、時間に捉われず、ご本人の好まれる物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、個々の状態に合わせてブラッシングやガーゼでの拭き取り、スポンジケアの介助を行っている。状態により歯科往診を受けられる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。トイレでは、出来る事はして頂くよう心掛けている。	ベッド上でオムツ交換の方もいるが、日中は出来るだけトイレで排泄できるよう、一人ひとりの排泄チェック表を活用してさりげなく声掛けしトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦や寒天を混ぜて炊いている。便秘の方には起床時に冷たい牛乳を飲んで頂いたり歩行の出来る方は歩行運動で自然排便を心掛けている。おやつ前後のラジオ体操が毎日の日課となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全に配慮し個々に合わせ実施している。拒否がある時は無理強いせず、意思を尊重している。季節によりゆずを入れる事もある。	週2回は入浴出来る様、曜日は決めないで利用者のタイミングや行事に合わせて入浴支援を行っている。お湯を張り替え、あつ湯やぬる湯など入浴が楽しみになるよう一人ひとりの希望に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、居室内の空調や布団の調節を行っている。ご本人の希望や体調に合わせて対応している。天気の良い日は布団を干し気持ち良く眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すぐに見られる場所に各ご利用者の処方内容がわかるファイルを設置している。新しく処方を受けた薬や処方の変更があった場合は申し送り等で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の状態に応じ、出来る事を一緒に行っている。食事の希望や外食の希望などを伺い、計画している。食事会の時や暑い日などノンアルコールビールを提供する事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて、外出の機会を意識している。施設まわりの散歩や希望によりコンビニなどへも出かける。面会者との外出・ご家族との外食・自宅へ外泊される方もいる。	道路のすぐ前にコンビニがあり、菓子などの嗜好品や筆ペンなど利用者の必要な買物を一緒に行っている。近くに市内最大の公園もあり車イスで散歩に出かけたり、行けない方には花弁当を作って外出の気分を共に味わってもらえる様努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっている個別資金がある。希望があれば一緒に出掛け、支払が出来る方にはレジでの支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方が二人おり、居室内で使用されている。年賀状のやり取りや手紙のやり取りをされている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾っている。壁面や玄関なども季節に合わせて飾り付けを変えている。食事時間はゆったりと食事出来るよう音楽を流している。テラスでは花や野菜を育て皆で収穫した物は食材として提供している。	居間から一直線に続く広い廊下は各居室やトイレ等がわかりやすく、安全で機能的な作りになっている。トイレ付近にも椅子が設置され、混み合ってもそこで待つことが出来る。陽射しの強い日は天井からレースのカーテンが閉められ室内を過ごしやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ近くにソファを設置し自由に利用して頂いている。時間によりソファに移動しご利用者同士の交流の場ともなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたベッドや鏡台・タンスなどを使用している方もいる。お孫さんの写真や絵などを飾っている方もいる。お花が好きなお利用者のご家族が定期的に生花を届け飾って頂いている方もいる。	入居間近く持ち込み品の少ない方もいるが、椅子やチェスト、懐かしい家族写真や小物などを飾ってその方の居室となっている。全ての居室入り口には暖簾が掛けられ、プライバシーと安全を守る配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札や写真などの目印をつけている。洗面所やトイレ・お風呂などは看板を設置しわかりやすくしている。		